

3月・春期講習の授業記録をお送りいたします。

陽春の候——ご父母各位におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

この春から受験生になる皆さんへ——まずは、伝えたいことがあります。今後は「受験生としての自覚」を少しずつ持ちながら、日々の学習に臨んでいかなければなりません。そして、これまで以上に1回1回の定期試験の結果がとて大切になっていきます。部活動等何かと忙しい中であっても、ちょっとした時間を見つけてはコツコツと復習をしたりするなどして、少しずつでも家庭学習・自主学習の習慣化を図っていき、定期試験前にあわてることのないようにしていきましょう。



★
在塾生各人においては、これまでに学習した個々の単元や学習分野において、習った時点ではそれなりに理解していても、時間が経ってから再度既習事項を確認してみると思った以上に忘れていた箇所も多く、また定着度も芳しくないということに鑑み、先月は主に「1年間の総まとめ」を中心に行いました。

また、3月27日(火)～4月7日(土)の正味11日間にわたって、「春期講習」を実施しました。こちらでは受講生のそれぞれのニーズを踏まえながら、個々人が有する学習課題の解決に努めていきました。新学年になってからの学習には色々な不安が生じるかもしれませんが、個別指導会の講師一同が全力で在塾生の学習をバックアップしていきますので、ご父母各位におかれましてはどうぞご安心くださいませ。

当塾では、中学生を対象に【土曜無料補講】を実施しております。在塾生はぜひ積極的に参加して、基礎学力を上げていくようにしてください。

■重要なお知らせ■

4月29日(日)～5月6日(日)の8日間、塾がお休みになります。

上記のお休みに関する「振替授業」は原則発生いたしません(5月及び6月に「5週間」あるため)。ご注意ください。

ブログをスタート&更新中!

3月26日(月)より、個別指導会のブログをスタートしました! 在塾生ならびにご父母にとって有益な情報を種々ご提供できるようなツールを目指していきますので、ぜひご覧ください!! また、一例として大雪・地震などの際における臨時休校のお知らせなどの「緊急のお知らせ」などを掲載する場合がありますので、そういった場合にはぜひ閲覧してくださいませ。

※個別指導会のHPアドレス <http://www.kobetsushidoukai.jp/> もしくは **個別指導会** で検索
※校舎毎のアドレスは各教室までお問い合わせください(上記HP上のリンクからも入れます)

学習のアドバイス

新年度になりましたので、しばらくは科目ごとにテーマを絞って話を進めていきたいと思えます。

今回のテーマは、国語の「文法問題」です。文法とは、日常的に使っている言葉の決まりを体系的に整理したのですが、特に意識しなくてもそれなりに使いこなせているため、「わざわざ勉強しなくてもいいのではないか」と思っている人も多いのではないのでしょうか。これは大きな誤りです。無意識に使用しているからこそ、試験などで改めて問われた場合、微かな違いが分からずに混乱してしまうのです。ですから逆にきちんと勉強しなければいけないのですが、いざ勉強しようとして教科書や資料集を見ると、「文節の相互関係」や「連用修飾語」など難しい言葉が並んでいるため、気後れしてしまう人もいるかもしれま



せん。そんな人に朗報です。実際の入試問題では、こうした文法用語を答える問題はあまりなく、そのほとんどが言葉の用法を区別する問題です。ですので、言葉の用法の特徴をそれぞれ正しく分析することができれば正解できるということになります。試しに、次の問題をやってみてください。

●次の各文の傍線部「ない」のうち、他と品詞が違うものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大空には雲**一つ**ない。 イ 一人でも寂**しく**ない。
ウ 野菜が食**べられ**ない。 エ 彼は最近元**気**が**な**い。

どうでしょうか。分かりましたか。問題文に「品詞が違うものを」とありますが、それぞれの品詞が何かは答えられなくてかまいません。用法の違いに注目してください。正解は「ウ」です。言葉の用法を分析する第一歩は文節に区切ることでしたね。文節とは、言葉の意味をこわさないようにできるだけ短く区切ったまとまりで、切れ目に「ネ」が入ります。これは、中学1年の1学期に学習する内容です。「ウ」以外は「雲一つネ/ないネ」「寂しくネ/ないネ」「元気がネ/ないネ」のように「ない」の前で文節に区切ることができますが、「ウ」の場合は「食べられネ/ないネ」というように、意味がこわれて不自然になってしまいます。このように、「文法問題」には細かい知識がなかったとしてもよく考えれば正解を導くことができるものが数多く存在します。「知らない」「覚えていない」といったあきらめずに粘り強く取り組んでください。

平成30年度入試を振り返って ①

平成30年度入試の全日程が終了しましたので、これから何回かにわたって、その特徴や傾向について分析してみたいと思います。第1回目は、県立高校入試における倍率についてです。

12月の進路希望調査の結果からある程度予測はできましたが、近隣の高校において、偏差値60以上の学力上位校では、ほとんどの学校で倍率が下がりました。唯一、所沢高校の倍率が上がりましたが、それでも昨年と比べて0.9ポイントの上昇にとどまり、全体的に緩やかな入試となりました。

難易度の高い「学校選択問題」の導入により、昨年は倍率の上昇がかなり目立った偏差値が50前後の学力中位校ですが、今回は反動からか所沢西や豊岡などで倍率が下がりました。競争を避けた受験生の大半が、進学実績が好調な県内私立高校に流れたものと思われる。したがって、偏差値40以下の学力下位校においては、それほど大きな変動はありませんでした。

正答率が極端に低い問題があるなど、難易度の設定に課題があったために生じた学力格差を解消する目的で始まった2種類の問題による入試ですが、学力上位校では得点を取りにくく、その他の学校では得点を取りやすくなってあまり差がつかなくなりました。そのため、内申点のマイナスを本番の得点で挽回しようとしていた受験生にとっては厳しい入試となりました。こうした状況を踏まえ、今後新たな動きがある可能性がありますので、情報が入り次第、このコーナーでお伝えしてまいります。



教室長日記

思考力を鍛えよう!



学力を伸ばすためにたくさんの知識を身に付けることは大切ですが、だからといって知識量そのまま学力に直結するわけではありません。その知識を使いこなす「思考力」を鍛えなければ、それは“宝の持ち腐れ”になってしまいます。そこで、今回は簡単に思考力が鍛えられる本をいくつか紹介します。

- ① 「**アインシュタイン式子どもの論理脳ドリル**」シリーズ：アインシュタイン研究会／編（東邦出版）
アインシュタインが考案し、「世界の98%の人は解けないだろう」と語った問題をベースに作られた論理パズルです。いくつかのヒントを参考に表をうめていきながら問題に答えていきます。ヒントをよく読み筋道を立てて考えれば必ず正解に辿りつけるようになっています。
- ② 「**賢くなるパズル**」計算ブロック（たし算・かけ算・四則）：宮本哲也／著（学研）
イギリスの『タイムズ』紙に数独に続く数学パズルとして紹介されました。枠内の縦横同じ列に、重複しないように数字を1つずつ入れていくところは数独と同じですが、ヒントが+・×・÷の記号とその結果で与えられているため、難しくなっています。
- ③ 「**おはなし推理ドリル**」シリーズ：学研プラス／編（学研）
『ある事件について、その説明を読んで手がかりを見つけ事件を解決する』というコンセプトで作られた読解パズルです。普通の問題集と比べて文章が短いため、国語が苦手な人でも謎解き感覚で楽しんでやることができます。また「科学編」「歴史編」など種類が豊富ですので、自分の興味に合わせて選べます。

ぜひ挑戦してみてください!

(東所沢校 安斎)